



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA -

c/o YMCA INTERNATIONAL PROGRAM CENTER
 Dojima Grand Bldg., 1-5-17
 Dojima Kita-ku Osaka 530 JAPAN
 PHONE (06)344-1717

CENTENNIAL

Feb. 1984

II-8

THEME (1983~'84)

- I. P. REACHING OUT
"手を差し伸べて"
- R. D. CREATIVE POWER
"創造への熱情"
- D. G. 兄弟の愛をもって
- P. ONWARD CENTENNIAL

PART II

◦「TOF」強調月間〈日本区〉

2月例会プログラム

<TIME OF FAST>

とき 2月15日(水) 18:30~20:30
 ところ YMCA国際・社会奉仕センター

司会 平田 雅利君

1. 開 会 山中会長
2. ワイズソング 一同
3. 聖句 朗読 岡本公一君
4. 祈 祷 谷川 寛君
5. ゲスト紹介 山中会長
6. 役員会報告 "
7. '84年度クラブ役員選任について "
8. CS(TOF)について CS委員長 藤本史郎君
9. B C-ヌアヌクラブを訪問して 松添 壯君
10. 誕生日のお祝い 山中会長
11. ニコニコアワー 黒田敏之君
12. 委員長報告・YMCAニュース
13. 閉 会 山中会長

▲例会当番(岡本、谷川、平田、阪田、山田)

▲TOFにつき食事の準備はいたしません。

▽誕生日おめでとう

- | | |
|------------|------------|
| 松添 壯君 | 1926年2月5日 |
| 川越 利信君 | 1944年2月8日 |
| 中川 徹太郎君 | 1951年2月9日 |
| 坂口 芳男君 | 1947年2月10日 |
| 田中 豊子 メネット | 2月19日 |
| 河野 良子 メネット | 2月24日 |
| 杉本 兌子 メネット | 2月24日 |
| 皆本 勝久君 | 1943年2月25日 |
| 中野 美智子メネット | 2月26日 |
| 岡本 公一君 | 1988年2月28日 |

Treasures in Jars of Clay

But we have this treasure in jars of clay to show that this all-surpassing power is from God and not from us.

We are hard pressed on every side, but not crushed; perplexed, but not in despair; persecuted, but not abandoned; struck down, but not destroyed.

ところで、わたしたちは、このような宝を土でできた入れ物に納めています。それは、この並はずれて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかになるためです。わたしたちはあらゆる面で苦しめられていますが、行き詰まりません。途方に暮れますが、失望しません。虐げられますが、見捨てられません。打ち倒されますが、滅ぼされません。

(コリントの信徒への手紙Ⅱ 第4章7~9節)

1月例会 出席者 [在籍会員 35名]

	合同例会	第2例会	Makeup	集 計
メ ン	22名	16名	3名	25名
出席率	62.86%			71.43%
メネット	7名			
コメット	3名			
ヴィジター 新 人				
合 計	32名	16名		

◦メネット 黒田、鈴木、谷川、藤井、森田、山田、山中各メネット。

◦コメット 田中美果さん、山中圭さん。酒井佐津子さん。

▽退会されました

松崎滋雄君は病氣療養のため退会されました。

「約100日の入院生活を終え、12月28日に退院しましたので新年のご挨拶が遅れました」とのお便りがありました。一日も早くご全快の上、復帰されることをお祈りします。

▽坂口芳良、照屋貞夫両君の入会(既報)により、1月より在籍会員は35名となりました。



燃える中西部、新年に船出す。 — 新年合同例会 —

新春恒例の中西部新年合同例会は1月7日(土)、サウスクラブのホストにより建設交流館で開催された。

「新年に船出しよう」とのタイトルで第一部が始まる。横山中西部長は「燃える中西部として、8月までに各クラブ一斉にラストスパートをかけ、本年度目標を達成しよう」と力強くアピール。田中日本区理事は「最近の調査によれば、日本人は10人のうち6人までがボランティア活動をしたいと考えているが、現実には忙しくて時間がないとか生活にゆとりがないとの理由で、10人に1人しか活動をしていない。アメリカでは、ボランティア活動の実績が大学入試の評価基準にさえなっているという。無償行為の少ない社会は貧しい社会であるともいえる。何か奉仕をしたいと考えながら活動の機会を得ない人々にワイズメンのよさこびを伝え、一人でも多くの人達を仲間に加えよう」と挨拶された。続いて宇野YMCA総主事は「一年の計は元旦にありと云うが、元旦になってから計画していたのでは今年のスタートが遅れる。年の明けるまでに計画を立てておいて元旦には決意を示すということできれば困難な時代を乗り切ることはできない」ともう来年の18歳人口激減に対するYMCA活動の取組みの決意を表明された。



中西部各クラブ合同入会式は岩越日本区監事の手により執行されたが、本年の入会者はわがセンテナルの坂口芳良、照屋貞夫両君のみであった。「日本人の60%までが、社会のために何かしたいと考えているということは誠に嬉しい。われわれは漠然とした何かでなく、YMCAを通じて青少年の為にという具体的な目的をもって奉仕活動をするクラブである。また、国際的な視点に立つこと、宗教的にはクリスチャンであることにこだわらず、巾広く徹底的に奉仕することを願っている」との激励を受け、中西部クラブ員の見守る中で入会宣誓が行われた。



このあと、CS事業のTOF資金が、アジア各地でYMCAのリーダー養成のプログラムを通じてどのように生かされているかの報告が、スライド映写とセンテナル谷川寛君の解説で行われ、Y'SとYMCAのパートナーシップについての理解を深める一刻を持った。

第一部のメインイベントは、堀江謙一氏による「男のロマン、ヨットにすべてを」と題する講演。ヨットによる単独世界一周の冒険譚を通じて「失敗を恐れているは成功は生まれない」と自信に満ちた信念の反面「幾度か生死紙一重の危機場面を乗り越えられたことは、たゞ運がよかったというしかない」と大成功におごらない謙虚な話しぶりがさわやかであった。



第二部は祝宴「ハッピーニューイヤー」。クラブの垣を越えて、年令や肩書を越えてのオープンな雰囲気は、いつもながらワイズパーティの光景。あっという間に時間が過ぎ、一同「年のはじめのためしとて」と声高く唱いあげ新しい年への船出をことほぎつゝ散会となった。



今月の聖句によせて

黒田 敏之

使徒パウロがコリントの信徒へあてた手紙の一節です。キリストによって教えられた神への信仰をもつとき、どんな思難をうけても、途方に暮れるような状態におかれても、それを打ち破ってみずからの活路を開いてゆく力を与えられるのです。しかもこの宝とも言うべき信仰の力は、決して富や権勢をもつ人（金の入れ物）にのみ与えられているのではなく、「土でできた入れ物」とも言えるごく普通の、あるいは一見弱く見えるような人でも、信仰によって偉大な力を発揮することができるものであることを教えている言葉である。

〈鋭視野・ASIA〉

フィリピンの医療事情と貧困問題（その3）

— パルド・デ・タペラ博士の講演から —

・貧困をもたらすもの

医者や看護婦がどんなにすばらしい技術を持っているとしても、彼らだけでは一国全体の保健の危機を解決することはできない。なぜなら、一国の病気をなおすには、その国の貧困が解消されなければならないからである。悲劇的なことに、貧困の解消と防止は、政府のエリートや社会の特権階級の既得権益によって妨害されているのである。

1981年6月号の「キリスト教医療委員会」誌は、飢え、貧困、不正義などの地球規模の問題にメスを入れているが、そこに見られる次のような箇所はフィリピンの経済体制にぴったりあてはまるようだ。

「すべての人が十分な分け前を得るのに十分な富があるように、食糧も十分にある。だから根本的な問題は、権力、支配、分配ということになる。飢えた貧しい人々は、生活の変化をもたらすために社会的、政治的、経済的力行使するうえで、最も力を持たない存在である。ということは決して偶然の一致ではない」

栄養不良というのは食糧の供給が十分でないために起ることではなく、経済と政治の実権を握る人々が国内及び国際経済を運営するやり方のために、供給が不平等に分配される結果生じる問題である。農村の貧乏人は、農地の所有権を奪われ、平等な利益を得るための政治力を持たないために、貧困にとどまり、また増々貧しさの度合を増している。

（NCC・アジア資料より）

▽第2例会の記録—1月25日（水）—

- 2月例会プログラムの決定。
TOFの月として、その理解を一層深めることを主眼に運営することとする。
- 3月例会について。
BF強調月でもあり、又切手の月でもあり、「BFについてみんなで学び、楽しいBFの時をもとう」のキャンペーン例会として企画する。
- BF切手整理の会開催について。
2月26日（日）14:00より、川越BF委員の指導の下、切手整理会を開催する。場所は肥後橋の盲人情報文化センター。メン・メネットの集合を呼びかける。
- BF切手ポイントについて。
昨年10月末切で提出したBF切手は14,228枚、16,580ポイントであったとのBF委員報告を了承した。
- 今年の例会日程について。
〔第1例会〕毎月第3水曜日。但し8月は22日第4水曜日とし、ピア・パーティを行う。又12月はクリスマス例会として、22日（土）を予定する。
〔第2例会〕毎月第4水曜日。但し8月は29日第5水曜日、12月は19日第3水曜日とする。
なお'85年1月は中西部合同例会とは別に、1月例会を持つことにする。
- YMCA新館完成後の例会会場について。
土佐堀のYMCA新館オープン後は、第1例会を土佐堀で、第2例会を堂島センターで持つことにする。
- BC・ヌアスクラブ訪問計画について。
1月10日、松添君がヌアスクラブにおもむき折衝の結果、来る5月25日～27日、マウイ島で開催予定のハワイ地区大会にセンテニアルよりの参加を歓迎する。又終了後のホームステイもOKということになった。是非実現すべく、費用・日程など具体的なプランニングを早急に行い、メンバーに呼び掛けることを決定。
- '84年度クラブ役員選任について。
山中会長以下、安福、鈴木、河野、田中、中川各君に候補者指名委員を委任し、2月例会において承認決定を得ることとする。

▽森田 誠君 転勤されます

東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル
オリエンツ・リース(株) 03-435-6666

4月までは単身赴任で会社の独身寮住いです。ご活躍を祈ります。

☆
☆
ワイズは北に向かって
1984年6月2日土→3日日

第39回 日本区大会は仙台です

（第二次登録切 4月30日まで）

メ ン 2,6000円
メ ネット 2,5000円
コ メ ッ ト 1,0000円

§ 一枚の写真 §

ワイズ交友録Ⅱ

鈴木 謙 介

先月号では、ワイズメンズクラブ創立者で初代国際会長 Judge PAUL WILLIAM ALEXANDER を紹介しました。これからはこの題を掲げてワイズの朋友を何人か毎月とりあげて紹介させて頂き、皆さんの興味に役立てればと思います。交友を通しての私の印象、人物観の一端と書いて頂ければ結構です。

今月は ROY NAYLOR, P.I.P. について語りたと思います。彼はずっとサンタモニカに住んでペンキを主にした建築材料の店を開いています。生粋のアメリカのワイズメンでクラブを興し1958年国際大会を招致し、そのとき区理事、ちなみにこの区は Pacific South West と称してカリフォルニア南部を主とする区で、おそらく世界一米国を通して一番有力な区の一つであろう。私は同年頃日本区理事、そして彼は1966年 I.P. 就任でカナダ、フレデリクトン国際大会の主宰者だった。私はこの大会にアジアからの国際副会長として初出席だった。

初めて彼と妻の MAXINE に会った。小売商人らしい腰の低い好ましい人柄。戦争中は海軍に従軍した。直前 I.P. の MAX LARSON は ROY と軍関係で動いた仲で、サンタモニカから二人の I.P. が出たわけである。MAX の方は弁護士でインテリだが ROY の方は実務派。それだけに行動力に富み当時のアメリカ世界のワイズの隆盛期の大きな貢献者の一人である。いつも笑みをたたえている顔は魅力的だが、身体の方は頑丈にできているが背は低い方である。メネットの MAXINE はブロンドの美人。最近看護婦大学の先生をリタイヤした。部屋を増増したから一度泊まらんかといってきたので、1982年夏エステスパークの帰りに数日泊めてもらった。夫婦の寝室をそのまま明けてくれた。子供もみんな集ってきたし、ロス周辺のワイズ Old Timer が20人も招かれ、ほんとの久闊を叙した。もうこれで L.A. にはこれだろうといったら何を馬鹿なことをいうかとみんながいった。今年の国際大会のグランドラビッツではみんな顔を見せようが、この中にも EVE PRAY や MAE JAN GESWAARD そして MOLLY BAKER はもうこの地上にはいない。



ROY NAYLOR 夫妻の年齢は我々より二三年若いらしい。彼らは1967年来日し、東京・大阪附近のクラブ訪問をした。三男一女に恵まれたがまだ孫がない。長女 KATHY は高校教師、長男 LARRY がやっと一昨年この写真の MARIA と結婚しただけで、どういふものか他の子供らは

結婚しない。MARIA は LARRY が青年奉仕隊で内戦のエルサルバドルに行っているとき婚約して、ちょうど私共が同家に滞在中にエルサルバドルからやってきて家事の手伝いをしたり英語の勉強に励んでいた。その後1982年夏結婚してエルサルバドルに帰っていったと思われる。この写真は同家の裏庭で撮ったものでクリスマスに送って来た。弟の CRAIG もたしか学校教師、末弟 MARK は造園設計技師である。ペンキの商売は好不況の影響が激しいのでいつまでも苦勞するよといっていた笑顔が思い出される。L.A. を訪れるワイズは電話をかけてやると良い。とても喜ぶから。(Home Phone) 213-450-8392

“BF切手整理の会”お知らせ

3月は本年度BF切手のメ切月となります。そこで各自の手元にある切手や、BF委員の所に集まったが、未整理の切手を、全員参加で一挙に整理することにより下記のとおり「整理の会」を開催します。メン・メネット全員集合し、ワイワイ楽しく仕上げをしましょう。

と き 2月26日(日) 14:00~17:00
 ところ 官人情報文化センター(ICCB)
 西区江戸堀1-13-2<06-441-0015>
 地下鉄四ツ橋線、肥後橋2号階段上ルスク
 所持品 洗面器又はトレイ(深くない容器)
 ピンセット
 参 考 ブリテン83年4月号(1-7)掲載記事
 <BF切手の扱い方と整理>をご一読下さい。

— < Y M C A ニ ュ ー ス > —

○新理事長に岩越重雄氏就任

長い間理事長として大阪YMCAの発展のためにご尽力下さいました尾形繁之氏(大阪ワイズ)はこの度理事長をご退任になり、新理事長に岩越重雄氏(大阪ワイズ)が就任されましたのでお知らせいたします。皆様のご支援をお願いします。

○サラワク協力・奉仕セミナー

昨年協力会費によるプロジェクトとして実施されました、マレーシア・サラワク・ワークキャンプは本年は名称を上記に改め、サラワク・シブYMCAとの連携をより密にして3月12日より実施されます。

○大阪YMCA新会館竣工式典

待望の新会館が完成の域に近づきましたので、竣工式と披露を3月2日(金)に行うことになりました。各ワイズには会長宛案内が発送されますが、皆様もどうぞご参加下さい。

第56回 グランドラビッツ国際大会

'84年国際大会の日程は7月26日~29日です。

日本からの参加は阪急交通社のアレンジでABC3種類のコースが組まれています。申し込みは4月10日まで。案内パンフがありますので河野書記まで申し出て下さい。